

大阪芸術大学短期大学部「紀要」への執筆

紀要第47号（2023年発行）

| 論文名・研究ノート | 執筆者 | 備考 |
|---|---------------|----|
| 演奏表現の研究Ⅶ ー副属七の和音（借用属七の和音）の連続使用ー | 門谷 行宏 | |
| ごっこ遊びに見る五領域往還視点からの保育環境考察 5歳児クラスのカラージュ製作（お弁当）を中心とした一斉ごっこ遊びの流れにおける活動意識の領域遷移と環境構成に見る多領域への往還の可能性 | 山本 泰三 | |
| 幼稚園における5歳児の七夕の願い事 ー現実／非現実の願いの視点からー | 作野 友美 | |
| 歌声の主観評価と歌手の熟達度に関する研究 | 高橋 純 | |
| ピアノ初心者の弾き歌い演奏から表現力を引き出す試み ーオノマトペの歌詞に着目してー | 塩野 亜矢子 | |
| 「幼児と人間関係」の授業展開の一考察 ー「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「モデルカリキュラム」の観点からー | 原 悦子 古川 督 | |
| 音楽と造形の融合 ー大阪芸術大学附属泉北幼稚園における表現と鑑賞の実践（2）楽器作りを通してー | 藪 晶子 紺谷 志野 | |
| 正史の歴史書にみる始点の考察 ー「始まりの時」の叙述に対する日韓比較ー | 北島 由紀子 | |
| 占領期大阪の新興紙 | 松尾 理也 | |
| 実録マンガの主人公あぶくま君が考える被災地の今そして未来 | 林 日出夫 | |
| フランス行政裁判に関する基本的事項 | 畑 雅弘 畑 友広 | |

紀要第46号（2022年発行）

| 論文名・研究ノート | 執筆者 | 備考 |
|---|----------------|----|
| ICTによる造形保育行事の可能性と、その目的・方法の再構築 ーパンデミックを契機とした行事の目的再設定と方法の創出ー | 山本 泰三 | |
| 保育の基本とその実践方法を学ぶ学生の学習状況についての考察 ー「保育・教育内容総論」と「保育・教育課程論」の連携についてー | 市毛 愛子 | |
| 子どもの七夕における願い事の発達的変遷 | 作野 友美 | |
| 幼稚園における「モデル・パターン」方式を用いた歌唱指導の実践と考察 ー保育所および幼保連携型認定こども園における実践を視野に入れてー | 紺谷 志野 多田 純一 | |
| 歌唱における歌い手のフォルマントに関する研究 | 高橋 純 | |
| 音楽と造形の融合 ー大阪芸術大学附属泉北幼稚園における表現と鑑賞の実践ー | 紺谷 志野 藪 晶子 | |

| | | |
|--|----------------|-------|
| コロナ禍を生き抜く演劇 | 九鬼 葉子 | |
| 保育士・幼稚園教諭養成校におけるピアノの弾き歌い指導に関する一考察 —《チューリップ》のアンケート調査から見えてきたこと— | 山田 真由美 岩本 愛 | 研究ノート |

紀要第45号（2021年発行）

| 論文名・研究ノート | 執筆者 | 備考 |
|--|-------------------------------|-------|
| コロナ惨禍の中での幼稚園経営 —附属幼稚園の「おはようコール」に取り組んで— | 西林 幸三郎、 佐藤 利一、乾 恵子、藪 晶子 | |
| 保育技術としてのプロソディとマザリーズ | 山本 泰三 | |
| 幼稚園における数にまつわるコミュニケーション —保育者の言葉かけと5歳児の発話に焦点を当てて— | 作野 友美 | |
| 新型コロナウイルス緊急事態宣言下における保育者養成校のピアノ教育 | 紺谷 志野 多田 純一 | |
| 芸術と地域再生—身体と地域の繋がり— | 河邊 こずえ | |
| クッション言葉の運用 | 奈良 行博 | 研究ノート |
| 教育者としての寒河江弘 | 藤田 茂敏 | 研究ノート |
| 原告適格の拡大の限界と「公益訴訟」の創設 | 畑 雅弘 | 研究ノート |